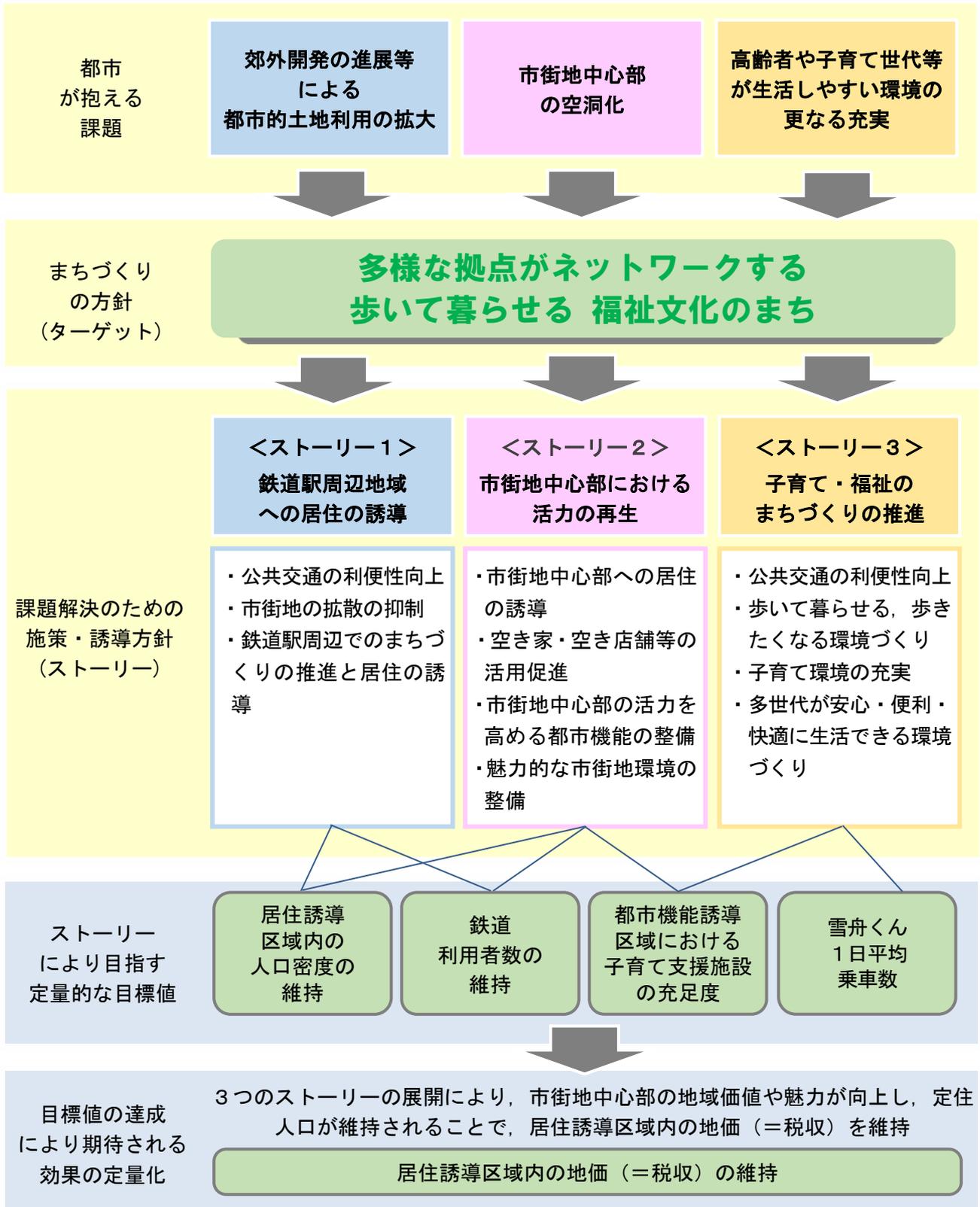


第6章 目標値等の設定

6-1 目標指標等の設定

まちづくりの方針（ターゲット）や課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）により目指す目標や、その達成により期待される効果を定量的に評価する指標を次のように設定します。

目標・効果指標の設定



6-2 従前値・目標値の設定

(1) 目標指標

目標指標 1	設定の考え方	従前値	目標値
居住誘導区域内の人口密度の維持	・鉄道駅周辺への居住の誘導や市街地中心部の活力の再生に係る様々な施策を展開することで、居住誘導区域内の人口密度を維持する。	44.3 人/ha (2010 年) 国勢調査	44.3 人/ha (2040 年)

【従前値の算出根拠】

- ・居住誘導区域内人口（17,984 人）÷居住誘導区域面積（406ha）で算出。
※居住誘導区域内人口は、居住誘導区域に含まれる 100mメッシュ別人口（2010 年国勢調査）より集計。

【目標値設定の考え方】

- ・国立社会保障人口問題研究所の人口推計による 2040 年の居住誘導区域内人口密度が 41.2 人/haまで減少することに対して、誘導施設の整備や誘導施策の推進等により、居住誘導区域内人口を維持する。

目標指標 2	設定の考え方	従前値	目標値
鉄道利用者数の維持	・J R 桃太郎線の L R T 化と鉄道駅周辺への居住の誘導等により、自動車に過度に依存しない高齢者等も歩いて便利に生活できる環境を整えることで、鉄道の利用者数を維持する。 ※目標指標 1 の考え方と整合	3,048 人/日 (2015 年度) J R 西日本 岡山支社	3,048 人/日 (2040 年度)

【従前値の算出根拠】

- ・J R 桃太郎線の沿線で都市核に位置づけられる J R 総社駅、J R 東総社駅の 1 日あたりの乗車人員（定期利用）の合計。

【目標値設定の考え方】

- ・J R 総社駅や東総社駅の駅勢圏である居住誘導区域内の人口が 2040 年までに約 1,300 人減少することに対して、自動車に過度に依存しない環境を整えることで、J R 総社駅、J R 東総社駅の乗車人員（定期利用）を維持する。

目標指標 3	設定の考え方	従前値	目標値
都市機能誘導区域における子育て支援施設の充足度	・誘導施設に位置つけた子育て支援施設の充実により、都市機能誘導区域内における充足度を高める。	79% (2018 年度)	100% (2040 年)

【従前値の算出根拠】

- ・都市機能誘導区域における子育て支援施設の徒歩圏面積（82ha）÷都市機能誘導区域面積（104ha）で算出。
※子育て支援施設の徒歩圏は、施設の中心から半径 500m。

【目標値設定の考え方】

- ・施設の充実を図り、充足度 100%を目指す。

目標指標 4	設定の考え方	従前値	目標値
雪舟くん 1日平均 乗車数	・コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実践により、公共交通を利用して便利に日常生活サービス等が享受できる人を増やす。	219人 (2017年) 総社市 統計データ	250人 (2020年) 第2次 総社市総合計画

【従前値の算出根拠】

- ・雪舟くんの年間利用者数（52,926人）÷年間運行日数（242日）で算出。

【目標値の算出根拠】

- ・総社市第2次総合計画の子育て施策に関する重要業績評価指標（KPI）を踏襲。目標値は、総合計画の見直しにあわせて更新。

（2）効果指標

3つのストーリーの展開により、市街地中心部の生活利便性や地域の価値、魅力の向上を図り、定住人口を維持することで、居住誘導区域内の地価を維持する。

地価の維持により、固定資産税等の税収を一定程度確保し、現在と同程度の市民サービスを提供する。

効果指標 1	従前値	目標値
居住誘導区域内の地域価値や魅力の向上による地価の維持	54,000円/㎡ (2018年) 地価公示	54,000円/㎡ (2040年)

【従前値の算出根拠】

- ・設定した居住誘導区域内に含まれる地価公示価格（総社-1，総社-2，総社-3，総社-5-1，総社5-2，総社7）の平均値。

【目標値設定の考え方】

- ・コンパクトなまちづくりの推進により市街地中心部の魅力を高めることで居住誘導区域の地価を維持する。